



# 新春を迎えて

せたな町長

高橋 貞光

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、希望に満ちた平成24年の新春を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、3月11日の東北太平洋沿岸を襲った千年に一度と言われる東日本大震災、そして原発事故、我国は国難ともいえる未曾有の大被害を受けました。

早速、せたな町から被災地へ職員の派遣と義援金をお送りさせていただきました。また、町民の皆さんからも多額の善意が寄せられましたことに、改めて感謝するとともに厚くお礼を申し上げます。

外国の記者は、暴力や混乱もなく社会的秩序を守って助け合う姿を見て「他人を思いやる心」が今も存在していると称賛し「日本ガンバレ」と、本国誌で伝えられたと聞きました。

日本は今回の災害で大変多くのものを失いましたが、一方で日本固有の「絆」を再認識させられた年でもありました。

せたな町では、農業において主力の水稲が作況指数104で「やや良」、畑作では馬鈴薯・ビートが天候不順により減収、大豆・小豆については平年並み、また高収益作物として振興しているブロッコリーは前年を上回り、

これまで最高の1億1千万円を突破いたしました。このような状況から耕種部門全体としては、まずまずの結果となりました。畜産では飼料作物の減収、昨年の猛暑の影響による乳量の減、肉畜

価格の低迷などで、残念ながら昨年を下回ることを予想されております。

漁業については、漁獲高で11億3千万円と前年同期と比べ、1億2千万円増となっております。主な要因は秋サケ漁が豊漁で

1億6千6百万円の大幅増によるものです。ナマコ・ウニについては、例年並を確保できましたが、スルメイカについては安値で推移したことから前年を下回る状況となっております。

一次産業に極めて影響が大きいTPPについては、農林水産業・農山漁村のみならず、本町の地域経済、社会そのものの崩壊につながる恐れがあるため、絶対に参加をしないよう、関係の皆さん・団体と共に強力で反対運動をしたいと考えております。





社会資本関連では、大成区の水道整備事業が宮野地区で順次給水を開始しております。新年度以降についても貝取潤・花歌両地区を始めとし、整備を進め給水区域の拡大を図ってまいります。町道満俺線1・2・3号各支線の改良工事も完成しました。し尿処理ではミックス処理施設が年度内に完成し、4月から運転開始となる他、福祉では旧榑崎医院の小規模特別養護老人ホームが1月末に完成し、6月入所に向けた開設準備に支援をしてまいります。防災では昨年の震災を教訓に「自分の命は自ら守る」との考えから防災グッズへの助成を行い、非常時の備えをしたところ。医療では長年の懸案であった大成診療所の用地問題が解決しましたので、具体的な診療所の整備について、医療等対策

審議会に諮るなど取り組んでまいります。次に町財政についてですが、これまで人件費や公債費等、経常経費の削減を進めてきた結果、平成22年度決算の財政指標において、特に実質公債比率が目標を達成したことから昨年9月30日財政非常事態宣言を解除しました。これも一重に町民皆様のご協力の賜物であり感謝申し上げます。しかしながら、平成28年より地方交付税の合併優遇措置が終了し、通常の算定となることから約9億円、人口減少分を加えるとそれ以上の地方交付税が減少することが見込まれております。再び財政悪化を招かないため、一層財政基盤の強化が必要であり、今後においてもこれまで以上に組織のスリム化等行政コストの縮減を図り、受益と負担のバランスを考

えながら持続可能な町づくりを進めてまいります。明るい話もありました。日本女子サッカーの「なでしこジャパン」が並みいる世界の強豪を次々と倒し、ワールドカップ優勝という快挙に日本中が元気をもらいました。栄光の影の大変な努力があったことは言うまでもありません。せたな町は今年合併8年目を迎えます。一つの町としての完成にはもう少し時間が必要ですが、一段一段階段を上がるように町民の皆様、そして議員とともに、そのあるべき姿を議論し町づくりを汗を流していきたいと考えております。新しい年が、皆様にとりまして幸多い年でありませう、心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。